

### 3 前進する市町村教育委員会

市町村教育委員会は、市町村教育行政を直接担当し、地域の要望と、児童・生徒の実態を教育実践に反映させるうえに、きわめて重要な任務を有している。県教育委員会としては、常時、市町村教育委員会と密接な連関を保ち、筋のとおった教育行政の確立に努力してきた。

昭和34年度は、前年からの勤務評定実施をさらに充実し、9月末日までには県下全校とも、円滑に評定書の提出が完了した。

また、勤務評定とともに、小・中学校改訂教育課程協議会の実施が重要な施策として行なわれたが、県教組の反対があったにもかかわらず、ほとんど平穩に終了することができた。これは、県教育委員会と市町村教育委員会とが、上記のような連絡を保ち、相互に協力し合って教育行政の確保に努力してきた一つのあらわれともいうことができる。

これらの基盤にたつて、県教育委員会においては、市町村教育委員会と連関を保ちながらもその育成強化に努力してきた。以下、その概要をのべる。

#### A 市町村教育長の任命承認

昭和34年度においては、下記のとおり、16名に及ぶ市町村教育長の任命承認が行なわれた。

- ◎齋 藤 一 男(前学校長) 伊達郡梁川町
- ◎和字慶 良 春(前学校長) 伊達郡保原町
- ◎佐 伯 政 夫(前助役) 常磐市
- ◎渡 辺 利一郎(前町長) 大沼郡金山町
- ◎志 賀 顕 義(前公務員) 田村郡滝根町
- ◎大八木 茂(前学校長) 喜多方市
- ◎熊 坂 藤 介(前公務員) 信夫郡信夫村
- ◎真 部 利 八(前学校長) 耶麻郡山都町
- ◎会 田 栄 新(前教育長) 岩瀬郡鏡石村
- ◎山 内 平(前教育長) 会津若松市
- ◎黒 沢 正 夫(前学校長) 相馬郡新地村
- ◎小 針 ヨ ネ(前委員) 西白河郡西郷村
- ◎佐 藤 勝 見(前学校長) 田村郡船引町
- ◎林 正(前委員長) 原町市
- ◎伊 藤 円 吉(前教育長) 信夫郡吾妻村
- ◎羽 山 斉(商業) 安積郡片平村

#### B 市町村教育委員会育成強化のための文部省の委託事務

昭和34年度に引続き、市町村教育委員会育成強化方策として、文部省の委託事務について計画し、実施した。  
a、文部省委託事務による市町村教育委員会育成強化の方針

市町村教育委員会の職責内容を明確に把握し、行政手続き、行政上の焦点を具体的に抽出する。これがため、県下各市町村教育委員会事務局職員を主体にして、

「市町村教育行政提要」の執筆を行ない、その過程において相互研修をはかる。

#### b、編集主体

福島県教育委員会

福島県市町村教育委員会連絡協議会

#### c、組織

県下市町村教育委員会事務局員の中から約50名を選抜し、それを県北、県南、会津、浜通りの4ブロックに組織し、研究主題を割り当てた。

さらに、市町村教育委員会教育長、各出張所長及び主任、本庁各課関係者若干名をもって助言者とした。

#### d、研究経過

(1) 8月下旬までに以上の組織を終り、市町村教育行政の内容を

- ◎地方教育行政制度の趣旨
- ◎教育委員会の設置及び組織
- ◎事務局の組織と運営
- ◎財務事務
- ◎学校管理
- ◎社会教育
- ◎保健体育

の分野に整理し、さらにそれらの分野を2から19項目にわけ、全体で72に及ぶ項目をたてた。

(2) 9月10日、第1回編集委員会議を開き、執筆者を各項目に応じて決定した。

執筆は各項目に応じ、次の順序で行なった。

- ◎趣 旨
- ◎用語の意義
- ◎行政事務(行政手続き)
- ◎実施上の重点

(3) 9月下旬から11月下旬までに、各ブロック単位に数回にわたって相互研究を重ね、第1次案を作成した。

(4) 11月下旬から12月中旬までに、各ブロックとも市町村教育委員会事務局職員研修会において内容を発表し、意見を反映し、第2次案を作成した。

(5) 35年1月下旬までに前第2次案を本庁各課に送付し、指導を得て最終案を作成した。

(6) 2月下旬までに印刷、製本を完了し、3月に配本を完了した。

#### e、集録の名称・その他

- (1) 名称市町村教育行政提要
- (2) 規格B 5版 420ページ

#### C 市町村における教育予算の編成に関する指導

市町村における教育予算は逐年改善に努力したところであるが、市町村においては、教育行政及び学校教育、社会教育等の実態を明確にすることなく、従って、実態に應ずることも少なかったため、著しく不利な編成が行われてきた。

昭和34年度においては、9月下旬より各市町村の実態